

会場案内



開催日	2012年9月8日(土)・9日(日)
会場	湯沢文化会館 大ホールほか (〒012-0037秋田県湯沢市字沖鶴103-1)
定員	1,000人 ※2日目のオプションは、現地視察コース各20人。徹底討論は200人(先着順)
対象	自治会・町内会など地域組織のリーダー、民生児童委員や福祉委員、各種ボランティア、NPO、高齢者・障がい者・児童福祉関係職員、商工業者、農協・生協・社協、自治体関係者、ほか、関心のある方
参加費	無料 資料代:1,000円 ※オプションの参加費/2,000円(2日目のみ参加の場合、別途資料代1,000円がかかります)
申込締切	2012年8月24日(金)
主催	第1回町内・集落福祉全国サミットin湯沢実行委員会
共催	湯沢市/湯沢市社会福祉協議会/全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
後援	厚生労働省/全国社会福祉協議会/秋田県/秋田県社会福祉協議会(予定)

●お問い合わせ先●

第1回 町内・集落福祉全国サミットin湯沢実行委員会
事務局/全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16番30号 シンエイ木町ビル1F
TEL 022-727-8730 FAX 022-727-8737

先進町内、集落に学ぶ

in湯沢

日時

2012年9月8日(土)・9日(日)

会場

湯沢文化会館 大ホールほか

主催:第1回町内・集落福祉全国サミットin湯沢実行委員会
共催:湯沢市/湯沢市社会福祉協議会/全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
後援:厚生労働省/全国社会福祉協議会/秋田県/秋田県社会福祉協議会(予定)

第1回

町内・集落福祉

全国サミット

日本の地方、特に中山間地域の多くは、急速な人口減少・少子高齢化に直面し、その存続すら危ぶまれています。そのようななか、住民自治組織などと社協・行政が連携し、「協働」による地域づくり、支え合いのコミュニティづくりの実践が生まれています。

こうした取り組みは、高齢者の生活支援や過疎地有償運送といった福祉の枠を越え、廃校を活用した居場所や宿泊などの拠点づくり、産地直売所や休耕田畑を活用した農作物づくりやその加工品販売、商店やガソリンスタンドなどの経営、農林漁業の支援、環境整備や防災、自然保護、文化伝承など、集落での暮らしの総合的な相互扶助や集落の維持再生活動へと展開されています。

これからの地方の、そして高齢化が進む都市のあり方を考えるうえで、これらの実践はとて多くのヒントを与えてくれます。

このサミットでは、湯沢市の実践をはじめ、全国の先進的な取り組みを題材に、現状や課題を徹底討論することで、今後の展開や支援のあり方をともに考え合うことを目的に開催いたします。

＜オプション＞

1日目

12:00～17:30

11:00～12:00 受付

12:00～12:15 開会（実行委員長あいさつ・市長歓迎あいさつ）

12:15～12:45

基調講演「集落の暮らしを守る住民活動の現状と課題」

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井博志

12:45～13:00 休憩（移動時間）

13:00～14:30

分科会A「見守り・声掛けや居場所づくりの実際」

● パネラー

御嶽町第一町内

元会長 土田 忠明
（湯沢地区社会福祉協議会 理事）

「森の巣箱」運営委員会（高知県津野町）

運営委員長 大崎 登

下矢部西部地区社会福祉協議会（熊本県山都町）

会長 津川 則光

● サポーター

全国社会福祉協議会 地域福祉部

部長 野崎 吉康

● コーディネーター

東北福祉大学 総合福祉学部

教授 高橋 誠一

14:30～14:50 休憩（移動時間）

14:50～15:20

湯沢市社会福祉協議会の活動紹介

● ナビゲーター 湯沢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 赤平 一夫

15:20～16:30

湯沢発 集落福祉のこれからへの提言（第1部）

● パネラー

秋田県立湯沢翔北高等学校

生徒さん

JAたすけあいの会

佐藤 ヒデ子

エフエムゆーとびあ（湯沢市コミュニティFM）

パーソナリティー 菅 奈保美

YY（湯沢ヤング）会議メンバー

委員長 柴田 直人

湯沢市七地区自治連絡協議会

会長 加藤 忠一

湯沢市社会福祉協議会 雄勝地区福祉サポートセンター

主査 築瀬 和子

● コーディネーター

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

教授 藤井 博志

※5分ほど 舞台転換（小休憩）

17:35～17:40 開会

会場：湯沢文化会館：大ホール／全体会

2日目


オプション現地ツアー

1

現地視察コース

9:30～12:30

定員 20人



皆瀬地区・若畑

小さな集落のまちづくり


皆瀬地区若畑は、周囲を山里に囲まれた10世帯の小さな集落。「故郷の名を残したい」と始まった活動のテーマは「無理せず」に。小さな活動は集落全体を巻き込んだ大きな活動に。ふるさとのお味「みそたんぽくり」をとおして「集落活性」と「まちづくり」を学ぶ。

2

現地視察コース

9:30～12:30

定員 20人



湯沢地区・宇留院内

“役割”づくりを大切にする高齢者サロン

湯沢市のなかでも高齢化率の高いのが宇留院内。家にこもりがちになってしまう高齢者。その問題を解決したのはサロン活動の“有料化”と“役割づくり”。深刻な高齢化に悩む地区のサロン活動から“工夫”を学ぶ。

3

現地視察コース

9:30～12:30

定員 20人



雄勝地区・愛宕町

全員参加のまちづくり

雄勝地区愛宕町は古くからの街並みに、新しい建物が点在する。新たに転入して来る人を温かく迎える仕組みがある。老若男女問わずの「全員参加のまちづくり」は全員が主役。“向こう三軒両隣”の支え合いを生み出す知恵を学ぶ。

オプション★日本福祉大学共同企画

徹底討論「集落の暮らしのこれからを考える」

会場：湯沢グランドホテル <第1部9:30～10:40 第2部10:50～12:30>

● パネラー

「森の巣箱」運営委員会（高知県津野町）

運営委員長 大崎 登

下矢部西部地区社会福祉協議会（熊本県山都町）

会長 津川 則光

下高尻福祉会（島根県吉賀町）

事務局長 渡辺 栄治二

川根振興協議会（広島県安芸高田市）

会長 辻 駒健二

やねだん（鹿児島県鹿屋市柳谷町内会）

町内会長 豊重 哲郎

湯沢市福祉事務所

所長 小松 久雄

湯沢市社会福祉協議会

会長 菅 義雄

秋田県社会福祉協議会 地域福祉部

部長 加藤 正樹

富山県厚生部

次長 小林 明夫

高知県地域福祉部

部長 小田切 泰禎

総務省地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室

室長 澤田 史朗

厚生労働省 社会・援護局 総務課

課長補佐 荒川 英雄

農林水産省 食料産業局食品小売サービス課外食産業室

室長 山口 靖

● サポーター

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

教授 藤井 博志

全国社会福祉協議会 地域福祉部

部長 野崎 吉康

● コーディネーター

日本福祉大学 社会福祉学部

教授 平野 隆之

団体紹介

森の巣箱（高知県津野町）

町の中心部からさらに山間部に入ったところにひっそりと佇む床鍋集落。過疎高齢化に悩む集落で、廃校校舎の活用に取り組んでいる。商店も飲み屋もない活気の失われた集落の消滅への危機感が行政当局を動かし、地域のうねりにつながる。足掛け15年に及ぶ取り組みにより、毎年3,000人が宿泊する集落の一大観光地として成長。

ほっとする会（秋田県湯沢市）

以前は単なるお茶飲み会だったが、住民の「ここさ来るとほっとするものなあ」という一言から命名。毎月10日・20・30日に活動を行う。「10日分笑って、10日分しゃべる」をテーマにした活動は、「地域のつながり」を生む。東日本大震災の時には、一人暮らしで心細いという方を泊めたり、母の日にカーネーションをプレゼントしに行ったりと、その日だけの付き合いではない、日常のつながりになっている。

川根振興協議会（広島県安芸高田市）

1972年から始まっている旧高宮町川根振興協議会のまちづくり活動。閉店後の農協の店舗とガソリンスタンドを譲り受けての営業や、廃校となった中学校の土地を利用したエコミュージアムでの飲食と宿泊サービスの提供、地域でのデイサービスなど多様であり、地元住民が「心の過疎」からの脱却を目指し、地域で「自分たちがどう生きるか」を追求している。

JAたすけあいの会（秋田県湯沢市）

高齢になっても“住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らすために”をテーマに、施設に頼らない支え合い活動を展開する。「介護が必要な人」「介護の不必要な人」、それぞれが地域で暮らしていける支援を展開する。

YY（湯沢ヤング）会議（秋田県湯沢市）

湯沢市在住の20～40歳代のそれぞれの地域の代表者13人を委嘱。自らの暮らす地域を見つめなおし、地域の福祉課題について話し合い、その解決に向けて協議、実践を重ねていく場が「Y(yuzawa)Y(young)(わいわい)会議」。次代を担う若い世代の地域福祉活動の参画推進を図る。

とうふの会/御嶽町第一町内（秋田県湯沢市）

2002年に始まった男性だけの会。町内会長だけで町内会を運営していたことへの違和感から、地域の人も巻き込んで町内会を運営できるように、交流の場をつくらうとしたことがキッカケ。原則、男性だけで企画・運営がなされ、参加者も男性に限られ現在は18人の会。「男同士、豆腐とお酒でざっくばらんに話そう」というのがコンセプト。

下矢部西部地区社会福祉協議会（熊本県山都町）

熊本市内から1時間半ほどの山間部にある地区で、高齢化率は40％を超える。廃校を交流と支え合いの拠点に、災害時に備えた宿泊体験や、生きがい健康づくり推進事業に取り組むほか、移動スーパーと連携した「移動（井戸）端会議」など、ユニークな実践を行っている。近年は拠点を小規模多機能ホーム「絆」と命名し、総合的な地域の支え合い拠点を展開しようと試行錯誤している。

下高尻福祉会（島根県吉賀町）

吉賀町内でも一番人口が少ない人口100人未満の地区。2008年に発足し、活動を始めるにあたってアンケート調査を実施。その結果をもとに、下高尻福祉活動計画を策定し、ふれあいサロンの運営や小地域ネットワーク活動、農産物生産・加工販売、広報誌「しもたかのええとこ」の発行など、5年後の地域の姿をイメージしながら、幅広い活動に取り組んでいる。

秋田県立湯沢翔北高等学校（秋田県湯沢市）

2011年に湯沢市内の二つの高校を統合してできた新しい高校。湯沢北高等学校と湯沢商工高等学校、両校の「ボランティア活動」の伝統は統合後も引き継がれる。「ボランティア」をとおした高校生の社会体験は、学校では学ぶことのできない“学び”の機会となっている。地域の魅力発見にもつながり、湯沢を担う次世代を育てる。

エフエムゆーとびあ（秋田県湯沢市）

湯沢市にあるコミュニティFM局「エフエムゆーとびあ」は、「地域の情報の受発信を通じて夢と文化を創造する」をコンセプトに、76.3MHzで毎日元気に放送中！「ゆーとびあ倶楽部」には市民リスナーが参加し、番組を展開する。毎週月曜日には地元の高校生が参加する。地域で支え、地域とつくるラジオ局。

やねだん（鹿児島県鹿屋市柳谷町内会）

通称「やねだん」と言われている柳谷集落。目指したのは「行政に頼らない地域再生」。集落総参加で労力や経験を提供し合い、土着菌を使った土づくりやオリジナル焼酎づくりなど、独自の商品開発で自主財源を増やしたほか、住民の工夫で福祉や教育も自ら充実させている。集落全戸にボーナスを出したことも有名。